



陳言コラム-6

中国雑談

中国富豪あれこれ

普通の日本人より金持ちになった中国人は、あっちこっちに出ている。ちょっと金満日本しか知らない筆者は、そのような中国人に遭うと、すごく意外に感じる。

先日、『フォーブス』中国語版でA株と香港株式上場企業のCEOの報酬額リストが発表され、レノボ・グループのCEOである楊元慶氏が1億1896万元の年間報酬で香港株式上場企業の中でトップとなり、また中国の上場企業の中でも最高となった。これでは筆者の知っている日系IT企業の社長さん達より年収が多いのではないかと思った。

楊元慶氏は中国企業界における「少年よ大志を抱け」のシンボルとなる人物の一人で、1989年、大学を卒業した楊氏はレノボにおける初の公開募集により就職した大学生の一人となり、2000年にレノボ・グループのCEO兼総裁になったとき、わずか36歳であった。こののち、彼はレノボ・ブランドをつくりあげることに成功し、IBMのPC部門を買収して、レノボを成功したグローバル企業にしようとしている。2011年に『フォーブス』が発表した「2011年中国上場企業CEOの報酬リスト」では、楊元慶氏は7872万元の報酬により、H股非国有上場企業のトップとなっている。

浙江省の380人に1人は「千万富豪」

楊元慶氏のような人は例外であり、中国には、多くの「千万富豪」がいることを浙江省に行けばすぐ分かる。

浙商ネットによると、胡潤研究院は「2015 胡潤浙江地区財富報告」で、浙江省の高収入層の人数は全国4位で、380人に1人が1000万元以上の資産を持ち、6200人に1人は1億元以上の資産を保有していることを明らかにした。1000万元以上の資産を持っている富裕層は14万6000人と前年に比べ1万3000人増加、全国の12%を占めた。1億元以上の資産保有者は8790人で同990人増、全国の11%を占めた。資産5億元以上の「超富裕層」は2004人で、全国の11.8%を占めている。トップ3はアリババの馬雲(51)、飲料



水で有名になった哇哈哈の宗慶後（70）、自動車部品の万向集団の魯冠球（69）だが、「80後」世代からも漢鼎宇佑集団の王麒誠（35）、呉艷（34）夫妻が100億富豪の仲間入りを果たしている。経営する業種別では、製造業が最も多く38.8%を占め、次いで不動産が23.4%、アパレル・繊維が7.2%と続いている。

富豪の移民数で中国が世界のトップに

大富豪になり、中国で引き続き金儲けをして、どんどん肥えていけばいいだろうと思うと、そうでもないようだ。

資産コンサルティング企業の「新世界財富」による最新の報告で、2000年から2014年までの間に億万長者の出入りが最も頻繁だった国家が発表された。その報告によると2014年、中国にいる億万長者の人数は60万8500人で、世界で第5位だった。億万長者の人数が世界で最も多いのは米国で、410万人だった。しかし、富裕層の移民数は中国が世界最多で、9万1000人に達している。中国の富豪たちの主要な移住先は米国、シンガポールそして英国だ。これらの国々以外に、香港も中国の富豪たちの間で最も人気の高い移住先の一つとなっており、現在中国の億万長者2万9000人が香港で暮らしている。

30年前に筆者が日本へ留学に行き、その時の在日中国人は5万人ぐらいたと記憶している。今はおそらく80万人近くいるだろう。安心安全の日本は、いつか中国の大富豪に注目されるだろうか。あるいはずっと注目されないほうがいいのだろうか。

陳言 日本語日刊紙『速読中国』編集長。

連絡先: chenyan@seapush.com